ご本山だより

大本山永平寺

啓蟄

寒気は続きますが、日差しが真冬のそれとは違い、穏やかな気候の到来を予感させるようになりました。

三方を深い山に囲まれている永平寺ですが、その山にはさまざまな生き物が暮らしています。猪、熊、鹿ばかりでなく外来種であるアナグマも生息しているようです。彼らも暖かな春を待っていることでしょう。

さて、二十四節気のひとつである「啓蟄」とは寒さの緩みを感知した虫が這い出す時期のこと。三月五日がそれにあたります。先人の繊細な表現には時に驚かされますが、確かにこの時期は虫が活動を開始するのです。残雪の為見つけづらいのですが、自然の営みに順応している虫には一考させられます。

季節はかわり、新たな三月が訪れましたが、今月は修行に一区切りをつけ巣立つ者と、修行のために上山する者が交差する時期でもあります。

僧侶という「生き方」を選んだからには修行に終わりはありません。永平寺での修行に区切りをつけても、修行自体に区切りはつかないのです。尊き一日を大切にし、修行を重ねてまいります。

ご本山だより

大本山總持寺

東日本大震災一周忌法要

三月十七日から二十三日の七日間、大祖堂で春彼岸施食会（せじきえ）が執り行われます。多くの檀信徒の方がたが集まり、亡き御霊とご先祖に手を合わせます。特に二十日のお中日は江川辰三（しんざん）禅師が大導師となられ、大施食会が行われます。

ところで、お彼岸を前にした三月十一日は、東日本大震災からまる一年となる日です。当日は、私たちの切なる願いを込め、檀信徒と共に震災で亡くなられた方がたの一周忌追悼法要を厳修し、復興を誓います。なおこれに合わせて、宗教学者の山折哲雄先生の講演や、大鼓（おおつづみ）奏者の大倉正之助さんを招いての能舞台、さらに伝統音楽と仏教声明のコラボレーションによる慰霊・復興祈願法要が予定されています。

また三回忌までには、観音さまの御遷座（せんざ）が実施される予定です。平成二十年に建立された大きな観音さまを、高台に、被災地の方角に向けてお移しいたします。お名前も「平成救世観（ぐぜ）音」と新たに命名されます。

それから現在、両本山共同で、被災寺院に桜の木を送り永久（とわ）に慰霊と復興の想いを伝えようという、桜プロジェクトの計画を進めております。今後、境内の一角に御寺院さまからいただいた江戸彼岸桜の苗木を育成する予定です。

曹洞俳壇

選・村松五灰子

参道の踏むに戸惑ふ落葉かな　静岡県　川坂　林

評　表の賑やかな参道ではなく、鳥居や山門をくぐった結界の中の参道だろう。神さまや仏さまが静寂の中に降らせる落葉と思えばこうした心に囚われる。静かな心の中の一句。

炬燵出るまだ折り合わぬ小旅行　北海道　福島　眞也

評　小旅行とはいえ楽しい家族揃ってのようだ。それぞれの希望が出て行き先、費用、乗り物などと、なかなかまとまらない。炬燵を囲む話に作者の愛情が滲む句。

◆枯菊を焚き父の忌でありしかな　東京都　長谷川　瞳

◆柚子風呂を立て節操を守りけり　愛媛県　井上　征郎

◆さんま寿し一箸置いて伊勢訛　愛知県　松井　暁美

◆短日や何もせぬのに三度食ふ　福島県　西木　甚

◆重き風仮設に吹きて十二月　宮城県　須藤智恵子

◆うぶすなの長命の井の若水を　岩手県　上沖　貞子

◆百僧の朝の読経や年迫る　北海道　大野　節子

◆人もまたありのまま良し枯木立　埼玉県　橋本　永子

◆電話機のそばを離れずマフラー編む　岐阜県　金子　嘉幸

◆子にまさる宝あるめや嫁が君　秋田県　松山　蕗州

＊選者吟

靴跡の深々とあり芦の角　五灰子

＊作句小見

神代の時代から和歌が生まれ、短歌、俳句、川柳等々、現代もなお連綿と詠う心は受け継がれて居ます。その伝統文化の一つである俳句から世界的にも希な四季を持つ自然の中に生きて来た過去の人びとの心を探り、豊かな日々を送るために、より俳句を学んで行きたいと思って居ます。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

四十年を動き疲れし掛時計　振り子止まる
をネジ巻かず置く　静岡県　高尾　善五

評　今はあまり見かけなくなったが、振り子の掛時計はかつて家の中心に据えられ、家族の暮しを日々見守る物として存在していた。四十年を動き続けて止まった時計を、作者は自身に重ね合わせ、ねぎらっているようだ。

ひと月ほど前まで父の座りゐし椅子のくぼみを見ればかなしも　北海道　池田　雨郷

評　亡き父上の愛用の椅子、その椅子の「くぼみ」に着目して詠われたところが、よりリアルに生身の身体を想像させ、哀しみを増幅する。

◆原発の里に放置の牛群れて人襲いくる夢におののく　岩手県　池田　眸

◆口笛に犬を呼びつつ元日の新聞配達少年は行く　福島県　大槻　弘

◆間違いの電話の主のやわらかき声に癒やされ今日がはじまる　兵庫県　前田あつ子

◆腰浮かし自転車漕ぎ行く少年の背中にきらり初雪光る　山形県　多田　さよ

◆図書館の大木の間に渾身の返り花かな日に包まれて　三重県　野呂　と志

◆水抜きする農業用地に餌を漁る白鷺・烏あらそうことなく　福岡県　小林　素水

◆「起きなさい」母の発する百舌のこえ早くしないとまた百舌が鳴く　福岡県　三吉　誠

◆過ぎゆきの庭のひかりを追うわれに茗荷の花のしろき哀しみ　山口県　中井　清子

◆菊花はお隣さんと連なりて懸崖のごと花咲き満つる　北海道　吉田　洋子

◆「起きてるの」この一声に励まされ怠惰な吾のけふが始まる　東京都　石場くに子

＊選者詠

荘厳の楽が聞こえてくるごとしテニスコートの先の富士山　ちづ

＊作歌小見

東日本大震災や原発事故などで被災された方がたは殊の外、寒い冬を過されていることと心が痛みます。復興が一日も早く軌道に乗るよう祈るばかりです。「一声に励まされ」と詠う石場さんは九十三歳の方、どうぞこの一年もお健やかに。